

第1回 オリエンテーション・保険の基本用語

2017年度後期「保険論」の講座で予定している内容、本講義の運営・採点方針、保険の当事者と基本用語について説明する。

1. この講義の目標と15回の講義で予定している内容
2. 運営・採点方針
3. 保険加入動機と保険からの給付
4. 保険の仕組み・構成と基本用語

1. この講義の目標と15回の講義で予定している内容

1.1 この講義の目標

保険システムは、長い歴史を経て、今日では、保障・補償の機能を果たすだけでなく、社会的な政策目的にも利用されている。保険サービスを実現するためにどのようなメカニズムがあるのか、保険システムが社会でどのように利用されてきたかを理解すること。

保険システムの基本的な理解をもとに、保険に関する事象について自分で考察できるようにすること。

1.2 15回の講義で予定している内容

- ①保険にはどのような保障・補償があるかという取り上げ方ではなく、保険をシステムとして捉えて、保険の仕組みを理解するように努める。
- ②保険システムの基本なメカニズムを理解することを重視し、取り上げるトピックは基本的なことを網羅する。
- ③歴史的な出来事からメカニズムを学ぶようにする。
- ④日本の現実だけでなく、先進国の保険事業・市場との比較を行って理解する。

第1回	オリエンテーション・保険の基本用語	9月21日
第2回	多種多様な保険の種類と保険の類型化	9月28日
第3回	保険の歴史－欧州における保険事業の成立	10月5日
第4回	保険の歴史－欧州における近代的保険事業の展開	10月12日
第5回	保険の歴史－日本における近代保険事業の導入・発展	10月19日
第6回	保険の歴史－日本における第二次大戦後期の保険事業の激動	10月26日
第7回	保険の仕組み－大数の法則・保険料の算出	11月9日
第8回	保険の仕組み－危険選択・健全円滑な事業運営のための対策	11月16日
第9回	保険の仕組み－リスクの多義性・マネジメント手法とリスクの移転・分散システム	11月30日
第10回	保険事業における二つの機能・収益構造と保険金支払能力の確保	12月7日
第11回	保険ニーズの特徴と保険市場の当事者・加入方式	12月14日
第12回	保険システムの利用－賠償責任保険の利用と社会政策目的の強制保険システム	12月21日
第13回	保険事業への規制－必要性和展開	1月11日
第14回	世界の保険市場・保険事業の多様性	1月18日
第15回	金融と保険が重なり合う世界とその解釈	1月25日

2. 運営・採点方針

2.1 運営

・説明資料を配布して講義する。質問回答用紙を講義後に配布、受講者は授業終了時に提出する。

受講者が記入した質問事項のなかから適宜選択して次回に回答。

損保ジャパン日本興亜総合研究所のホームページに説明資料を掲載する予定。

・成績評価は、提出レポート70%、質問回答用紙の小問題回答・質問事項の記入内容30%で行う。

2.2 事前・事後学修

・事前に各回のテーマに関して指定図書の該当部分を参照することが望ましい。各回に配布する説明資料における発展問題と参照資料を讀んで事後学習する。

・指定図書は、下和田功編「はじめて学ぶリスクと保険（第4版）」有斐閣 2014年。

2.3 採点方針

2.3. (1) 提出レポートの評価

提出レポートの評価は、第1に基本的なメカニズムを理解しているか、第2に保険に関する事象について自分で考察できているかの2点で評価する。前者については、講義において基本的なメカニズムについて説明した内容が理解されているかで判断する（授業内容をどれだけ理解しているかをはっきり判るように記述すること）。後者については、単なる感想ではなく、基本的メカニズムの理解に基づいて考察がなされたかで判断する（講義した内容と異なる見解を記述することは可。ただし、根拠を示すこと。）考察は、取り上げたテーマに直接関係する問題点・課題・対応策などについて行う（もっと自分は勉強したいとの記述は考察ではなく感想である）。

2.3. (2) 提出レポートのテーマ・提出日・構成・留意点

・提出レポートのテーマは、第1回から第14回までの講義で取り上げた事項から自分でテーマを選択して、そのテーマについて理解したことと、そのテーマについて考察したことを記載して、第15回授業時終了時に提出する。

▽理解したことと考察したことは、授業で取り上げた同一のテーマ・項目とすること。

▽選択するテーマは、授業で取り上げた事項に直接関係がある範囲内とする。選択したテーマがどの回目かを明記すること（複数回を取り上げることも可能）。関係ないテーマは採点対象にならない。例えば、欧米日本の保険事情を講義で取り上げる予定であるが、東アジア、西アジアやアフリカの保険事情をテーマとすることは不可。提出するレポートは、保険に関する自由論題のレポートではない。

提出レポートの構成：次の3つの部分に分けて記載すること。

- ①レポートで取り上げるテーマ（取り上げるテーマ、回目、取り上げる理由）、
- ②取り上げるテーマの理解（レポートで取り上げるテーマに関して授業で理解したこと）、
- ③レポートで取り上げるテーマに直接関係する事柄に関する考察

2.3. (3) 質問回答用紙の留意点

・質問回答用紙への回答は、授業内容を考慮し真剣に考えて記入すること。いい加減な記入と認めた場合には、減点対象とすることがある。

質問回答用紙の小問題回答・質問事項に記入された内容が優良な場合には、加点対象にする。

3. 保険加入動機と保険からの給付

事故に備えて保険に加入 保険からの給付は保険金という金銭給付

3.1 保険へ加入する理由・きっかけを考える事例；個人と法人

偶然な事故に備えて保険に加入する

保険が必要となるとき：個人

生命保険に入るきっかけ	損害保険に入るきっかけ
<ul style="list-style-type: none"> ・ 結婚した・子供が生まれたので、生活保障をしたい ・ 老後の生活資金を確保したい ・ 病気・怪我に備えたい 介護に備えたい ・ 子供の教育資金を確保したい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 車を買った 旅行に行く→事故に備えたい ・ 家を建てた（買った）ので、火事に備えたい ・ 病気・怪我に備えたい ・ 他人にケガを負わせた場合やモノに損害を与えた場合の賠償に備えたい

死亡後の遺族への保障（生活費・子供の学費）



他人のケガ・モノの損害への賠償



保険が必要となる時：法人

生命保険に入るきっかけ	損害保険に入るきっかけ
<ul style="list-style-type: none"> ・ 従業員の死亡・病気・傷害に備えたい ・ 経営者死亡の保障をしたい ・ 従業員の退職金・年金を準備したい ・ 従業員が死亡・病気・傷害になったときに弔慰金を支払う 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社屋や工場を建てたので事故に備えたい ・ 飛行機墜落 旅客へ賠償 ・ 政府労働災害保険の上乗せ補償に備えたい ・ 他人の身体障害または財物の滅失・毀損に備えたい ・ 商品等の輸送の事故に備えたい

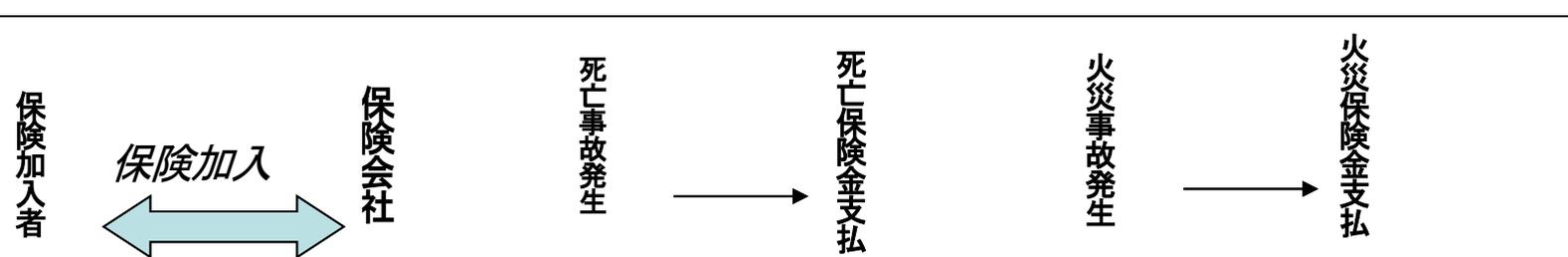
従業員が死亡・病気・傷害になったときに弔慰金を支払



飛行機墜落 旅客へ賠償



3.2. 保険からの給付



- ・偶然な事故にあった場合に保険会社が金銭給付

Q 金銭給付以外の方法があるのか、あるとするならばどんな方法か？

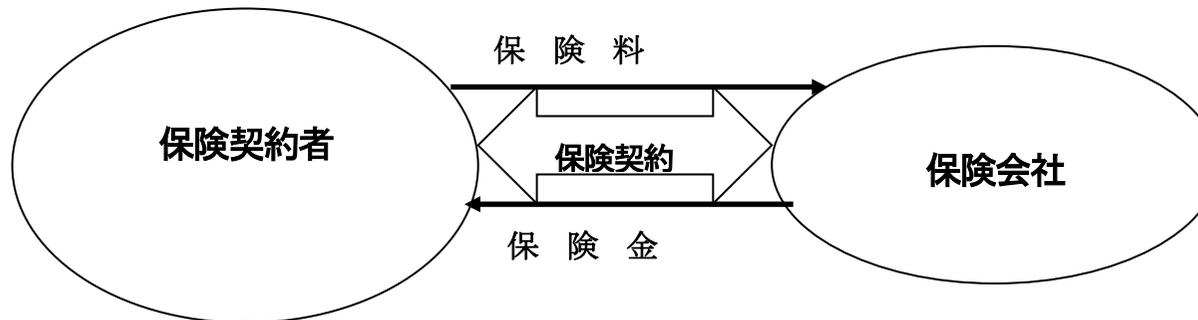
4. 保険の仕組み・構成と基本用語

基本的な用語を理解するとともに、当事者の名称についても理解する

4.1 基本用語

保険料と保険金

* 保険に入る、保険を付ける = 保険契約をする→保険契約者という用語



誤解：保険金は、保険を利用するための掛け金

注意！ 保険料と保険金の違い

保険料は、保険を利用する料金

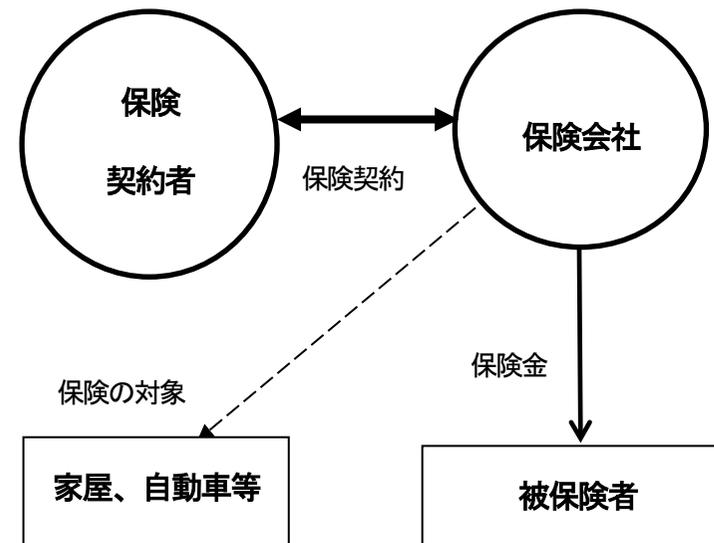
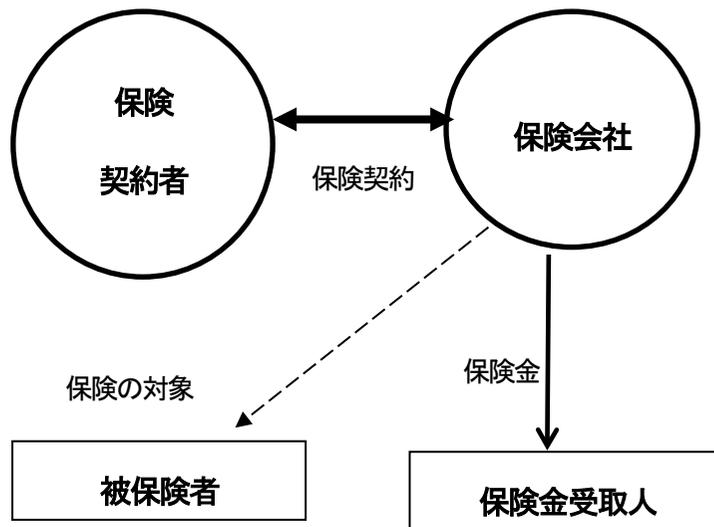
保険金は、保険からの金銭給付

4.2 保険契約の当事者

保険契約の当事者・生命保険と損害保険で、用語が違っている。被保険者の意味が違う

生命保険：人の生死に関して保障する

損害保険：損害を補償する



保険契約者：自分の名前で、保険契約をする者

被保険者 損害保険の被保険者： 火事などの事故によって損害を被る可能性がある者→保険金を請求できる者

生命保険の被保険者： その人の死亡が生命保険の対象となっている者→保険金を請求できる者ではない。

保険金受取人 保険金を請求し、受け取ることができる者。(損害保険では保険金を被保険者が受け取る)。